

## まちづくり（自転車）

現在、日本は一家に一台は自動車がある時代です。自動車が発明されたおかげで、私たちは何処へでも自由に行くことができ、生活は豊かになりました。

しかし、裏側を覗いてみると深刻な問題が着々と進んでいました。自動車の増加により、市街地では交通渋滞が毎日のように発生し環境に悪影響を与えています。また、今までは都市の中心市街地に様々なデパート等がありましたが、土地が広く、安い郊外に大型ショッピングセンターがたくさん建設されました。駐車場の少ない市街地に比べ、大規模な駐車場を持ち、アクセスがしやすい郊外のデパートに人が流れ、中心市街地はシャッター街と呼ばれるほど活気を失ってしまいました。今後の日本の状況を考えた場合、この状況を何とかしなければなりません。

これらの問題の解決策として、「自転車」が挙げられます。

「自転車」が着目されている理由

- ① 人の力で進むので二酸化炭素が排出されない（ガソリン等がいらない）
  - ② 自分の好きなときに移動できる・渋滞の心配がない
  - ③ スペースを必要としないので駐輪に困らない
  - ④ 誰でも運転することができる（3輪自転車もある）
  - ⑤ 経済的である（一台の値段が安い・ガソリン等の移動経費が掛からない）
  - ⑥ 健康的である（近距離で自動車を利用するより自転車を利用し体を動かす）
- などです。



図1 都市の問題点

しかし、自転車に関して問題があります。まず一つ目に「どうすれば自転車に乗ってもらえるか」です。「自動車が楽だよ」と言う人たちに、どのように自転車をアピールしたらよいか考えなくてはなりません。例えば市街地の自転車回遊マップを作成することにより、いつもと違う風景を楽しんでもらったり、郷土料理の食べ歩きができることを知ってもらいます。また、自転車により体を動かすことにより健康面でのアピールする方法も考えられます。

二つ目に、「マナー」に関してです。自転車だからといって、何処でも駐輪してよいものではありません。しかし、市街地には駐輪場が少なく、店の前の歩道に乱雑に放置されているのが現状です。また、自転車は歩道を走るものではなく、車道を走らなくてはなりません。自動車が近くを走って怖いという理由から歩道を走り、人と自転車の衝突事故が多数おきています。その解決策として自転車道というものが整備されていますが、実際は整備されている場所が少なく結局は歩道を走ってしまうのが現実です。

私たちは、環境にやさしく、市街地の活性化につながると考えられる、素晴らしい交通手段「自転車」について、私たちが利用する交通手段の中の位置づけを見直し、如何に自転車のよさを理解してもらい、如何に利用してもらうかを研究しています。たかが自転車ですが、突き詰めると自動車よりも奥が深いのが自転車です。



図2 様々な対策（自転車マップ・自転車道路・自転車放置禁止区域図）